

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

(令和4年度 人間科学部理学療法学科)

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あたり の在籍学 生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
人間科学 部 理学療法 学科	11人	1人	3人	0人	15人	8人	13人	0人	17人	25.20人	
計	11人	1人	3人	0人	15人	8人	13人	0人	17人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
<input checked="" type="radio"/>	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
<input type="radio"/>	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
<input type="radio"/>	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基礎 人間と社会 社会の理解	文章表現	15	矢部玲子	兼任
		心理学概論	15	石垣則昭	兼任
		食生活論	15	荒井三津子	兼任
		生活と社会環境	15	今泉博文 金子翔拓	兼任
		総合教養講座	15	白戸力弥 渡部敏弘 大森圭 松岡審爾 小塚美由紀	専任及び兼任
		日本国憲法	15	池田杏奈	兼任
		現代医療と福祉・介護	15	今泉博文	兼任
		キャリア入門	8	木村悠里菜	兼任
		キャリアビジョン	8	池野秀則	専任
		キャリア形成	8	木村悠里菜	兼任
		生命科学	15	荒井克俊	兼任
		情報処理	15	松岡審爾	専任
		統計の基礎	15	武田裕康	兼任
		物理学	15	松岡審爾	専任
基礎化学	15	藤井駿吾	兼任		

		英語Ⅰ	15	Deepak K Samida	兼任
		英語Ⅱ	15	相馬哲也	兼任
		中国語Ⅰ	15	野間晃	兼任
		生涯スポーツⅠ	15	平岡英樹	兼任
		生涯スポーツⅡ	15	平岡英樹	兼任
専門基礎	人間の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	15	横井裕一郎	専任
		解剖学Ⅰ	15	木村一志 白幡智尋	専任及び兼任
		解剖学Ⅱ	15	白幡智尋	兼任
		生理学Ⅰ	15	木村一志 侘美靖	専任及び兼任
		生理学Ⅱ	15	木村一志	専任
		応用解剖学実習	15	池野秀則 橋田浩	専任
		生理学実習	8	木村一志 柴田恵理子	専任
		運動学Ⅰ	15	高田雄一 金子翔拓	専任及び兼任
		運動学Ⅱ	15	大森圭 橋田浩 金子翔拓	専任及び兼任
		運動学実習	12	大森圭 橋田浩	専任
		リハビリテーション工学	8	金谷匡紘 梅田信吾 佐藤美由紀 田中絵栄一	兼任
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	15	瀧山晃弘
	微生物・免疫学		8	木村一志 績佳代	専任及び兼任
	終末期医療		8	佐藤明紀	専任
	内科学		15	水越常德 林貴士 松谷学 明石浩史 汐谷優	非常勤講師
	整形外科		15	田邊芳恵	専任
	脳神経内科学		15	松谷学 林貴士	非常勤講師
	小児科学		8	石黒信久	非常勤講師
	精神医学Ⅰ		15	瀧山晃弘	兼任
	精神医学Ⅱ		15	瀧山晃弘	兼任
	リハビリテーション医学		8	橋内勇 村上優衣	専任及び兼任
	老年医学		8	瀧山晃弘 佐々木幸子 辻美幸 績佳代	専任及び兼任
	リハビリテーション障害学	8	金子翔拓 田邊芳恵	専任及び兼任	

		臨床心理学	8	松岡 紘史	非常勤講師
		リハビリテーション栄養学	8	佐々木将太	兼任
		臨床薬理学	8	纘佳代	兼任
		救急医学	8	俵敏弘 高橋信行	非常勤講師
		言語障害治療学	8	金浜悦子	非常勤講師
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医学概論	8	田邊芳恵	専任
		リハビリテーション概論	8	渡辺明日香 牧野均	専任及び兼任
		公衆衛生学	8	佐々木幸子	専任
		地域包括ケアシステム論	8	水本淳	専任
		統計と社会調査法	15	小田史郎	非常勤講師
		チーム医療概論	8	佐藤明紀 金谷匡紘 鹿内あずさ 纘佳代	専任及び兼任
専門	基礎理学療法学	理学療法概論	15	橘内勇 橋田浩	専任
		運動生理学	15	侘美靖	兼任
		病態運動学	8	牧野均	専任
		基礎解剖学実習	12	池野秀則	専任
		理学療法研究法	8	佐々木幸子	専任
		理学療法研究セミナー	15	橋田浩 横井裕一郎 大森圭 池野秀則 牧野均 高田雄一 佐藤明紀 佐々木幸子 柴田恵理子 橘内勇 水本淳 松田直樹	専任
		理学療法研究 I	15	橋田浩 横井裕一郎 大森圭 池野秀則 牧野均 高田雄一 佐藤明紀 佐々木幸子 柴田恵理子 橘内勇 水本淳 松田直樹	専任
		理学療法研究 II	15	橋田浩 横井裕一郎 大森圭 池野秀則 牧野均 高田雄一 佐藤明紀 佐々木幸子 柴田恵理子 橘内勇 水本淳 松田直樹	専任
		医療統計学	8	加茂憲一	非常勤講師
	理学療法管理学	15	橘内勇 横井裕一郎	専任	

理学療法評価学	理学療法評価学 I	8	佐藤明紀 柴田恵理子 松田直樹	専任
	理学療法評価学 II	8	柴田恵理子 松田直樹	専任
	理学療法評価学 III	8	松田直樹	専任
	理学療法評価学 実習 I	12	佐藤明紀 水本淳 松田直樹	専任
	理学療法評価学 実習 II	12	佐藤明紀 柴田恵理子 松田直樹	専任
	高次脳機能障害	8	太田久晶	非常勤講師
理学療法治療学	物理療法学	15	橘内勇 水本淳	専任
	物理療法学実習	8	橘内勇 水本淳	専任
	基礎運動療法学	8	柴田恵理子	専任
	義肢装具学	15	牧野均	専任
	義肢装具学実習	8	牧野均	専任
	運動器障害理学療法学	15	橋田浩 橘内勇 牧野均	専任
	運動器障害理学療法学実習	8	高田雄一 牧野均	専任
	神経障害理学療法学	15	柴田恵理子 松田直樹	専任
	神経障害理学療法学実習	8	柴田恵理子 松田直樹	専任
	内部障害理学療法学	15	佐藤明紀 根木亨	専任及び兼任
	内部障害理学療法学実習	8	佐藤明紀	専任
	子どもの理学療法学	15	横井裕一郎	専任
	子どもの理学療法学実習	8	横井裕一郎	専任
	日常生活活動学	8	佐々木幸子	専任
	日常生活活動学 実習	8	佐々木幸子 水本淳	専任

	理学療法総合セミナー	15	佐藤明紀 橋田浩 横井裕一郎 大森圭 池野秀則 牧野均 高田雄一 田邊芳恵 佐々木幸子 柴田恵理子 橋内勇 水本淳 松田直樹	専任
	徒手理学療法技術セミナー	15	大森圭 橋田浩	専任
	スポーツ領域理学療法技術セミナー	15	高田雄一 橋内勇	専任
	理学療法技術セミナーⅢ	15	大森圭 原清和	専任及び兼任
地域理学療法学	高齢者理学療法学	8	佐々木幸子	専任
	地域理学療法学	8	水本淳 横井裕一郎	専任
	地域理学療法学演習	5	水本淳 櫻田周	専任及び兼任
臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	45	柴田恵理子 松田直樹 橋田浩	専任
	臨床実習Ⅱ（訪問・通所）	45	水本淳 佐々木幸子	専任
	臨床実習Ⅲ（検査測定）	90	佐藤明紀 松田直樹	専任
	臨床実習Ⅳ（評価）	180	高田雄一 柴田恵理子	専任
	臨床実習Ⅴ（総合）	270	池野秀則 佐々木幸子 水本淳	専任
	臨床実習Ⅵ（総合）	270	牧野均 池野秀則 柴田恵理子	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報:臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ（見学実習）	1年後期	理学療法概論	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		医学概論	1年前期
臨床実習Ⅱ（訪問・通所）通所・訪問リハビリテーションの見学	2年後期	高齢者理学療法学	3年前期
		地域理学療法学	3年前期
		地域理学療法学演習	3年後期
臨床実習Ⅲ（検査測定） 臨床実習指導者の指導・監視の下、 様々な疾患・状態の対象者の対して基本的な検査・測定等を適切に実施する	2年後期	理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		理学療法評価学実習Ⅰ	2年後期
		理学療法評価学実習Ⅱ	2年前期

<p>ことを学び、検査測定の意義や重要性を学ぶことを目的とする。</p>		運動学 I	1 年後期
		整形外科学	2 年前期
		内科学	2 年前期
<p>臨床実習Ⅳ（評価） 臨床実習指導者の指導・監視の下、様々な疾患・状態の対象者に対して臨床実習Ⅲで学んだ技術を用いて検査・測定等を実施し、理学療法評価についてまとめ、評価結果から問題点抽出までの過程を学ぶ</p>	3 年後期	理学療法評価学 I	1 年後期
		理学療法評価学 II	2 年前期
		理学療法評価学実習 I	2 年後期
		理学療法評価学実習 II	2 年前期
		理学療法評価学Ⅲ	3 年後期
		高次脳機能障害	3 年前期
<p>臨床実習Ⅴ（総合） 臨床実習Ⅳで学んだ問題点の抽出を元に、目標設定、治療プログラムの立案および実施までの一貫した流れを学ぶ 臨床実Ⅵ（総合） 臨床実習Ⅴで学んだ目標設定や治療プログラムの立案をもとに治療を実施して対象者の反応や変化を的確に把握し再評価することを学ぶ</p>	4 年前期	病態運動学	3 年後期
		物理療法学	2 年後期
		物理療法学実習	3 年前期
		基礎運動療法学	3 年後期
		義肢装具学	3 年前期
		義肢装具学実習	3 年後期
		運動器障害理学療法学	3 年前期
		運動器障害理学療法学実習	3 年前期
		神経障害理学療法学	3 年前期
		神経障害理学療法学実習	3 年後期
		内部障害理学療法学	3 年前期
		内部障害理学療法学実習	3 年後期
		子どもの理学療法学	3 年前期
		子どもの理学療法学実習	3 年後期
日常生活活動学	2 年後期		
日常生活活動学実習	3 年前期		

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3

	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	北海道文教大学 人間科学部自己点検・評価委員会
委員名(委員長)	横井裕一郎(委員長)、木村浩一、橋田浩、金子翔拓、藤長すが子、加藤裕明、松岡審爾
組織の開催頻度	1年に一度
組織の取り組み内容	・大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。
	・授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。
	・授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。
	・教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
	・学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。 ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。 ・教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。 ・学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。 ・学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。 ・適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。
自己点検・評価結果の公表	<p>H P で 公 表 （ URL : https://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/pdf/2022/selfinspection_2022_003.pdf ）</p>

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報:シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教育開発センター室
	委員構成等	学長、副学長、教育開発センター室長、各学部長、各学科長
	改善の仕組みの実際	・月に1度会議を開催している。 ・毎年、シラバス作成の意味や方法について教員から理解を得ることや、シラバスの活用についてをテーマに学内全体でFDセミナーを開催している

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

- ・本学では自己点検・評価を毎年実施しており、学習環境の整備に努めている。
- ・2017年度に大学基準協会における大学評価を受け、大学基準適合の認定を受けており、2021年度には改善報告書を提出している。
- ・2020年度のリハビリテーション教育評価機構の審査を受け、評価認定施設と認められている。